

# AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学学術情報センターだより 第36号

## オーストリア国立図書館、四半世紀の去来

総合文化教授 山之内 克子

「ウィーン、ヨーゼフ・プラッツ1番地」。オーストリア国立図書館(ÖNB)の公式アドレスは、いにしへの君主たちが華やかな宮廷生活を繰り広げた王宮エリアの中心、バロック様式の広場の一角におかれている。広場に面したハプスブルク家の王室図書室、「プルンク・ザール」は、インキュナブラをはじめ数多の稀覯書を収めるほか、バロック建築の粋を凝らした華やかな内装から、「世界一美しい図書館」として称賛され、観光都市ウィーンにおけるアイコン的存在となっている。だが、この記念碑的図書室にかぎらず、オーストリア最大の学術情報機関、ÖNBの閲覧室と書庫の大部分は、じっさい、ホーフブルクと呼ばれる、旧ハプスブルク家の宮殿内部に収容されているのである。これは、歴史と伝統を重んじるウィーンという都市にとって、いかにも相応しいあり方といえるのかもしれない。

筆者がここで最初の文献・史料調査を開始したのは、修士論文の準備を進めていた1980年代後半のことである。その後、ウィーン大学留学と博士論文の作成、そして、一昨年度の在外研究にいたるまで、ほぼ四半世紀にわたり、多くの時間をこの宮殿内の閲覧室にて過ごしてきた。80年代当時の国立図書館はじつに古めかしく、暗幕の引かれた閲覧室には古風なバンカーランプが整然と

並び、また、入館時には、初老のクローク係が、手荷物用ロッカーの鍵を手ずから渡してくれるのが習いであった。「おはよう、元気?今日は寒いね」などと陽気に声をかけながら、若い学生には二階のロッカーを、杖を突く老人には入口近くの場所を手早く割り当てるその機敏さには、感心させられずにはおれなかった。

エントランスホールはいわゆるカタログ室になっており、膨大な書誌検索カードを収めたキャビネットが幾列にも連なっていた。検索カードは出版時期によって三種類に分類され、なかでも、1938年以前の文献については、古い手書きのカードを繰らなくてはならなかった。クレントと呼ばれる古筆記体の解読には苦心したが、折々、流麗な花文字でカードを記した人物の人となりや想像をめぐらせ、ゲーギッツやポルトハイムなど、往年の錚々たるウィーン郷土史家の偉業を胸にえがいては、感慨に耽ったものである。

歴史的建造物を利用したその環境が、なんとも珍しい光景を生み出したこともあった。1993年初夏、ウィーンの王宮は、スティーブン・ヘレク監督の映画、『三銃士』のロケ地となったのだった。ハリウッド・スターや撮影スタッフが続々と到着するなか、図書館は通常どおり開館しており、衣装を身につけた俳優たちが、一般利用者に混ざってカタログ室を平然と行き来していた。旧知の司書、マルティネク氏に導かれるまま、建物の奥に連なる中庭に出てみると、そこでは主演のチャーリー・シーンとキーファー・サザーランドがフェンシングの稽古をつけてもらっていた。17世紀ふうの扮装した彼らの姿は、現実世界のわれわれよりもむしろずっと、宮殿とその空気にしっくり馴染んでいるように感じられた。

こうして、古色蒼然とした佇まいのなかに新旧の知識を発信し続けたオーストリア国立図書館が、いよいよ劇的な変化の兆しを見せはじめたのは、2000年前後のことである。検索カードは段階的にデジタル化され、カードを収めたキャビネットもやがて姿を消して、かつての



「世界一美しい図書館」  
オーストリア国立図書館・プルンクザール

カタログ室は、瀟洒なソファを備えた休憩用ラウンジへと変身した。1997年にはホームページが開設され、2003年以降は、検索はいうまでもなく、ウェブ上での図書請求も可能になった。大学に職を得て、現地での史料調査にもはや長い時間を割けなくなっていた筆者にとって、この刷新はまさに夢のようなできごとであった。

オーストリア国立図書館のみごとなまでの大変身の背景に、2001年に館長のポストについたヨハンナ・ラッヒンガー博士の豊かなアイデアと改革精神が存在したことはいうまでもない。ラッヒンガー女史は、利用者から入館料を徴収する一方で、館内設備の徹底した改修作業に乗り出した。カウンターと閲覧室を隔てた重い扉は自動化され、書見台には新たにハロゲンランプとパソコン用のコンセント、LANケーブル用ジャックが整備された。公共図書館利用の有料化は大いに物議を醸したが、他方、2008年までに3倍を超える伸び率を記録した利用者数データは、新方針の明らかな成果としてきわめて高く評価されている。さらに、グーグル社の協力をえて、膨大な蔵書を、知的財産権が消滅したものから順次デジタル化して電子公開するプロジェクトは、ラッヒンガー氏を、2010年「オーストリアン・オブ・ザ・イヤー」の座に押し上げることになった。筆者の研究にとって必須の史料である18・19世紀の日刊新聞の多くが、現在、ウェブ上で閲覧できるのも、まさにこのプロジェクトがもたらした恩恵にほかならない。

明るい陽光の降り注ぐ国立図書館の閲覧室ではいま、45分ごとにエアミストが放たれ、一定の湿度が保持さ

れる仕組みになっている。ミストの微かな噴射音にふと書物から目を上げる古参の常連利用者は、そのたびごとに隔世の感にとらわれざるをえないだろう。手荷物用ロッカーがコイン形式に変わってからすでに久しいが、あの機敏なクローク係、コップ氏が鬼籍に入ったことを聞かされたとき、筆者もまた、時の流れを痛いほど実感させられたのであった。

この25年のうちにヨーロッパは統合され、ウィーン大学でもまた、ボローニャ・プロセスにもとづく新たな修学制度が導入された。一定年数内に学士論文を提出するよう義務づけられた学生たちは、開館前からノートパソコンを手に図書館の入口に列を作り、新学期にはきままって座席の争奪戦となる。紙の書物をほとんど手にしないまま、ネットサーフの合い間にパラグラフを繋ぐ彼らの学習スタイルは、筆者の留学時代には想像すらできなかったものだ。昼近くに起き出し、閉館の20時ギリギリまで粘って勉強するというかつての大学生の生活サイクルを、当時はだらしなく感じたものだが、少なくとも、本を介して学問と向き合うだけの時間的余裕が許されていたという点では、恵まれた時代だったのかもしれない。王宮内のモダンな閲覧室のただ中で、液晶画面に見入る若者たちの隣に座して古い書物の頁をめくっていると、時おり、四半世紀前に同じ書見台を照らした、あの暗いバンカーランプの光が無性になつかしくなることがある。

(やまのうち よしこ)



オーストリア国立図書館がおかれたウィーン新王宮

## 著書紹介

# 3・11 で現実化した「成長の限界」が日本を再生する

(共著. 小学館クリエイティブ. 2011年6月発行)

法経商専任講師 中嶋 圭介

今年、ローマ・クラブによる『成長の限界』(The Limits to Growth) の出版から 40 周年に当たります。当時世界人口は人類史上最速で増加しており、同クラブは、食糧・資源・エネルギー不足が、世界経済社会を「成長の限界」に導く可能性に警鐘を鳴らしました。

幸運にも、その後の世界は、危惧されたような破滅への道はたどりませんでした。この間、人口大国の多くが導入した積極的な出産抑制政策が出生率低下をもたらし、「緑の革命」やエネルギー効率の改善がリソース面の課題を克服したほか、交通・通信技術の発達や冷戦終焉がグローバル化を加速させ、新たな成長の可能性を開いたからです。

しかし、今日の世界から懸念材料が無くなったわけではありません。昨年 70 億人に達した世界人口は、今世紀半ばまでに 90 億人に達した辺りで長期的な安定を迎えると見られています。人口増加収束は朗報ですが、今後増加する 20 億人を賄うだけでも大きなリソース課題です。また、中国、インドなどの急速な所得(生活)水準の上昇は、爆発的なリソース需要の拡大をもたらすでしょう。さらに、地球規模で進行する気候変動や高齢化

など、今世紀的な課題も表面化しつつあります。

本書では、世界経済、食糧、エネルギー、環境、人口などの専門家 9 名が集い、21 世紀の世界が直面する「成長の限界」とは何なのか、それを私たちは、どのように解決していくべきなのかを問ひかけ、その示唆の提示を試みています。

今後の世界を担う人材を目指す外大生の皆さんに、是非ご一読をお勧めしたいと思います。

(なかしま けいすけ)



## シリーズわたしのしごと 図書館システム編

# 便利な道具(ツール)をつくる

こたえるひと：堀口 尚之

-- いきなり、ぶしつけな質問ですが、普段は学術情報センターの事務室内で仕事をされているのですか。図書館カウンターでお見かけした記憶がありません……

おっしゃる通り図書館事務室内にすることが多いです。ローテーションでカウンター執務をすることはありますが、その時間がほかの図書館職員と比べて短いのでお目にかかる機会は少ないかと思えます。コンピュータ機器にトラブルが発生した場合は別で、表に出てきてカウンター周辺で作業しています。

-- カウンターやトラブル発生時以外は、どんなことをされているのですか？

コンピュータ機器にトラブルが起きないようにメンテナンス作業を行ったりしています。

〈皆さんが利用される蔵書検索端末(OPAC)をはじめとする Windows パソコンで Update が正常に行われているか〉や、〈パソコンが壊れていないか〉や、〈コンピュータ・ウイルスに感染されていないか〉や、〈本の情報や貸出中の記録を保存しているサーバ・コンピュータが正常に動作しているか〉や、〈図書館コンピュータ・シス

テムが設計どおりに動いているか)などを定期的にチェックしています。不具合が見つかった際には機器の納入業者やシステム設計業者に連絡を取り、修理・交換・改修をしてもらいます。

これらは図書館コンピュータ・システムが安定稼働するのに必要な作業です。これらの仕事を2名が担当しています。

また、図書館のサービス成果指標となる貸出人数・冊数・来館者数などの利用統計数値を図書館システムから抽出して、グラフ化して分析することもしています。

#### --なるほど。まさに〈裏方〉ですね。

その通りです！

コンピュータ機器の配置や、蔵書検索端末(OPAC)で動いているアプリケーションや、図書館職員がカウンターで行う「貸出・返却・レファレンス」などの業務に使用する〈図書館システム専用アプリケーション〉の使い勝手を改良していくのも私たちの仕事です。

コンピュータ機器の配置が変わって便利になったり、蔵書検索端末(OPAC)の使い勝手が変化して良くなったりにしていたら、それが私たちの仕事の目に見える直接的な成果の一つです。

#### --最近の仕事で〈良かった〉と思えることは何ですか？

図書館閲覧室のレイアウトを一部変更した時に、8台の蔵書検索端末(OPAC)のうち、2台を入り口から見て奥のほう、つまり、新潮文庫の棚の前、語学分野の棚の辺りに移動しました。同時に立ち席にしたことですね。「本をちょっと調べたい時に、さっと検索ができるので便利」という声があったと聞きました。

立ち席用木製台の選定にも苦労しました。カーペットの一部をはがして、LANケーブルを敷設する作業も自分たちで行いました。けっこう手間がかかって大変でした。喜んでいただけているようで嬉しいです。

#### -- 言えばうちの大学の蔵書検索端末(OPAC)から使える「神戸市図書館情報ネットワーク 蔵書検索システム」で、棚にある本の書名を入れても検索できないことがありました。検索のコツがあるということですが？

Yahoo! JAPANやGoogleなどインターネット検索サービスで当たり前になっている「もしかして」機能などの賢い検索機能は実装されていないので、検索方法のルー

ルに基いて入力しないとうまくヒットしません。思いつくままの言葉を入力してもなかなかヒットしないのです。

《検索のコツ》というページが「蔵書検索システム」のトップ・ページからたどれます。画面の左上にある《操作方法ヘルプ(大学)》というリンクをクリックしていただくと下の方にリンクが表示されます。

内容は長くてややこしいです。でも、次のことを一つだけ覚えてくだされば、きっとヒット率が上がるとおもいます。「書名に含まれている単語単位の読みを、スペースで区切って3つほどを〈ひらがな〉で入れたほうがヒットしやすい」というコツです。日本語の書名の場合が顕著で、書名を頭から漢字とひらがなで入力してもヒットしない場合でも、ヒットするようになることでしょう。

#### -- 貸出期間の延長がインターネットでできると聞いたのですが。

「マイページ機能」です。図書館に本を持って行かなくても1回に限り貸出期間の延長ができます。また、貸し出されている本にインターネットから予約を入れます。順番が回ってきたらメールで連絡が届きます。ご自身の借りられている本の一覧を見ることも出来ます。

マイページを使うには図書館カウンターでの申請が必要です。GAIDAI PASSとは別のパスワードです。カウンターで申し込んでいただくとその場で仮パスワードを発行いたしますので、ログイン後にパスワードを変更してください。

#### -- スマホ版の「蔵書検索システム」はないのですか？

現在のところありません。皆さんが図書館内でスマホを片手に検索結果を見ながら本を探されている見かけることが多くなりました。いちいち拡大(ピンチアウト)しなければいけないので使いにくいですね。スマホに画面デザインを最適化した「蔵書検索システム」の必要性を感じていますので、新規機能開発の優先上位を上げようと思っています。

(ほりぐち ひさゆき 図書館職員)

## コンピュータを便利に使おう

池田 まさ子

2012 年 5 月から 6 月にかけて、情報メディア班より初年次教育を実施しました。

今回は、大学のコンピュータの使い方や、大学から皆さんに提供している情報サービスにはどのようなサービスがあり、どういう時に、どのように使えるのか、という事を、実際にパソコンを操作していただきながら説明を行いました。

当初は、基本的なことを中心に説明を行い、情報過多

にならないように心がけていましたが、講義を始めみると参加者の理解が早く、そのような心配は必要ありませんでした。

あとは、コンピュータ設置場所に置いている「学生用 ユーザーズガイド (CD の動画マニュアル)」にて、自分達で学習できると考えます。大学の情報サービスを大いに活用してください。

### 初年次教育「コンピュータを便利に使おう！」メニュー

1	概要説明	
2	PC 利用環境	ファイルの保存場所について ・大学のコンピュータでのファイルの保存場所。 ・ファイルサーバとの関係と注意事項。
3	教材 BOX	教材 BOX の使い方について
4	ALC NetAcademy2	大学が提供している英語自習教材の使い方と特徴について ・野村和宏教授からのメッセージ。 ・ログイン方法から、利用開始まで。 ・ALC NetAcademy2 に組み込まれている英語力向上のための機能や特徴。
5	GAIDAI-PASS	GAIDAI-PASS について ・GAIDAI-PASS へのログイン方法や、ログイン時の注意事項。
6	Web メール	大学の Web メール の操作方法について ・メールにファイルを添付して送信する。
7	Q & A	他、いろいろ。

### その他 お知らせ

2012 年度 5 月に、大学のコンピュータの使い方や、各種情報サービスの使い方について記載したマニュアルを、各コンピュータ設置場所のプリンター付近に配備しました。このマニュアルは動画マニュアルですので、付属の CD に格納されています。

色んな工夫を組み込んで仕上げましたので、興味を持って見ていただくと、面白い気づきがあるかも知れません。他の人が作成した資料を見て、技術やテクニックを盗むことも大切です。そのままコピーして文献を流用することは不正行為ですが、技術やテクニックは自分に取り込んだ時点で、あなたのスキルになります。是非、貪欲にスキルを身につける力をつけてください。



動画マニュアル

(いけだ まさこ 情報メディア職員)

## 第2回選書ツアーを開催しました

6/6(水)、ジュンク堂書店三宮店で第2回選書ツアーを行いました。今回は8人の参加者が約130冊を選びました。昨年と同じように幅広い分野の図書が集まりましたが、外大図書館では層の薄いジャンル(美術や歴史など)から意識的に選んでいる様子もうかがえました。

選書ツアーで選ばれた図書は、7月上旬に図書館閲覧室入口に展示する予定です。今回も、選んだ人がそれぞれおすすめコメントPOPを作成します。参加者が本を選ぶ作業をいかに楽しんだかが伝わればいいな、と思います。どうぞお楽しみに。

(橋本・須浦)



昨年度の展示の様子

## 図書館日誌 2011年12月～2012年6月

2011年

12.5-2012.1.27 展示「司書のおすすめD」第15回

12.7 選書ツアー参加者による茶話会、POP作成

2012年

1.20 リポジトリ・ワークショップ開催

(於三木記念会館)

1月のゼミガイダンス 2回実施

2.20 第二閲覧室 PC8台、プリンタ1台増設

3.26-3.30 蔵書点検

4.1 入退館ゲート更新

4.5 学部オリエンテーション

大学院オリエンテーション

4.6 研究生オリエンテーション

4.7 英語教育学オリエンテーション

4.9-5.25 展示「司書のおすすめD」第16回

4月のゼミガイダンス 14回実施

5.7 Newsletter No.1 発行

5.9-6.27 初年次教育(コンピュータを便利に使おう)

クラスごとに毎週水曜実施

5月のゼミガイダンス 4回実施

6.4- 展示「司書のおすすめD」第17回

6.5-6.6 トライやるウィーク(2名受け入れ)

6.6 選書ツアー

6月のゼミガイダンス 6回実施

AD ALTIORA SEMPER 神戸市外国語大学学術情報センターだより 第36号 ISSN 0919-2336

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学学術情報センター

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL：078-794-8151 / FAX：078-797-2257

URL：<http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/>

2012年7月2日発行 発行責任者：センター長 益岡隆志